

令和7年6月 校長室だより

# たかしよう

## 石川県への修学旅行

6月12日～13日にかけて、6年生の修学旅行に付き添いました。令和5年まで、修学旅行の行先は伊勢でしたが、昨年度から「石川県」に変わりました。それはなぜなのかをお伝えします。

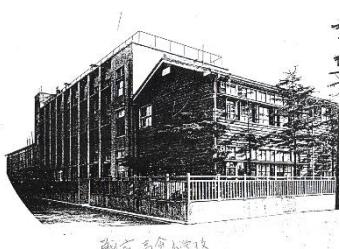
今から80年前の昭和19年、高倉小学校は児童数3000人以上の大阪市で2番目に大きな学校でした。サイパン島が陥落し、日本の都市へB29による空襲が始まり、大阪も例外ではありませんでした。8月23日に教育局(現在の教育

委員会)から、学童疎開の命令が出され、9月2日には、高倉小学校の疎開先が石川県の和気小学校に決定されました。翌日の9月3日に、高倉

小学校の教員3名が現地に視察に行き、10日に帰校されました。帰ってきた教員に、子どもたちは「先生、疎開先はどんなところでしたか?」と無邪気に聞いてきたそうです。先生は「落ち着いてよいところだった。」と答えたものの疎開先での子どもたちの生活を想像すると不憫でならなかったそうです。

9月11日、現地へ布団や荷物を送り、疎開生活の準備のために7名の教員が現地に向かいました。そして、9月15日の夜、3年生以上の児童の中から最初の64名が大阪駅から夜汽車に乗って石川県へ出発し、16日翌朝に現地に到着しました。

現地での生活は、とにかくお腹がすいたそうです。豆ごはん、すいとん、うどん、おやつはさつまいも。シラミに悩まされ、病気になっても医者に診てもらえることは少なかったそうです。そして、何よりも辛かったのは、何ヵ月も家族に会え



高倉小学校

第127表 疎開児童第1陣 受入れ状況 一昭和19年9月-		
9月16日受け入れ児童		
下車駅	学校名	人 数
大聖寺 粟津	都島 高倉	326 64

発行責任者 大阪市立高倉小学校校長 阪口 篤

なかったことです。宿舎のお寺の欄干にもたれて何人の子たちがひもじさと寂しさで「おかあちゃん、あいたいよ」と泣き声の合唱になっていたそうです。親御さんの方もやはりお子様の生活が心配で、中には自転車に乗って我が子に会いに石川まで来た方もいらっしゃったそうです。冬になると能美市は豪雪になります。長靴を持っていない高倉小学校の子たちは、登校するのに苦労しましたが、学校の体育でスキーを教わるなど楽しいこともありました。そして、昭和20年3月、6年生が受験や卒業式のために帰阪しました。しかし、3月13日の大阪大空襲に襲われてしまいます。この空襲の被害は甚大だったため、1、2年生も疎開することになりました。戦局は悪化の一途を辿り、ついに8月15日に終戦を迎えました。GHQの統治による混乱の中、9月21日には学童帰校命令が出され、10月17日に全員が無事に家に帰りました。帰ってきた児童は、半分焼け残った母校の校舎を見てどんな思いだったのでしょうか。学童疎開の約13ヵ月間、子どもたちも戦争でひもじさや寂しさと戦っていたわけです。本当に幼い子たちがよくぞこんなに長期間、苦しい生活に耐え忍んだものだと感心してしまいます。

そうやって、やっと得られた平和です。空から焼夷弾が降ってこない幸せな日々が、ありがたいことに約80年間も続いている。この平和を100年も200年も続けていかなくてはならない。学童疎開ではなく、修学旅行で石川県に行くことができる「戦争のない時代」であり続けたい。その担い手である子どもたちに、先輩たちの悲願である「平和の尊さ」を伝えるために、修学旅行の行先を石川県に変えました。

さて、本当に楽しい修学旅行でした。疎開を経験された高倉小学校の先輩方も、和気小学校の児童と楽しそうに交流している現在の6年生たちの笑顔を見て、喜んでくださっているに違いありません。この子たちの未来が再び戦争の惨禍によって壊されることがないように我々大人たちは平和を守り抜く覚悟を強く持たねばならないと思っています。



交流会のあと、和気小の子たちの花道を通って帰りました。

